学校番号	Ｔ０２０６

令和２年度　家庭科

教科	家庭	科目	生活デザイン	単位数	２単位	年次	２～４年次
使用教科書	生活デザイン　（実教出版）						
副教材等	無し						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

国際化、情報化、科学技術の発展、環境問題、少子高齢社会の到来など、社会の状況が大きく変化する中で、あなたはどのような人生観、生活観、価値観をもって生きていこうと考えていますか。

この科目では、生活に関する知識や技術を身につける一方で、それらのもつ意味や在り方を人の一生との関わりの中で考えていきます。また、生活者としての立場から実際の生活を見つめ、課題を発見し、改善していけるような実践的な力を養うことを目的としています。知識や技術をしっかり身に着けるとともに、自分の生活をより良いものにつくりかえていく楽しさを感じてください。そして、「自分らしいライフスタイル」を探求し、より主体的に人生を送っていけるよう、学習に取り組んでください。

２　学習の到達目標

・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族・家庭の意義、家族、子ども、そして社会との関わりについて理解させる。
・生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を育てる。

３　学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a.関心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.技能	d.知識・理解
観点の趣旨	人とのかかわり、衣食住などの生活、経済的な観点において、自立した生活に向けて、意欲的に学習にとりくもうとしている。	自分や家族・家庭、地域の生活にかかわる課題を見つけ、課題解決のため思考を深めて、工夫したり創造したりし、自分の考えをまとめ、判断できる。	自分・家庭や地域社会の生活に関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を身につけることができる。	自分や家族・家庭，地域社会の役割を理解し，生活の充実向上にむけて必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。
評価方法	学習状況の観察 ワークプリントの記述 実習作品 相互評価・自己評価 等	学習状況の観察 ワークプリントの記述 実習作品 定期考査の結果 相互評価・自己評価 等	学習状況の観察 ワークプリントの記述 実習作品 定期考査の結果 相互評価・自己評価 等	学習状況の観察 ワークプリントの記述 定期考査の結果 等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
				a	b	c	d		
前期	自分らしい生き方と家族	○生活デザインの学び方 ○自分を見つめる ○自立した生き方 ○共に生きる家族	・学習の意義や内容、学習、評価方法 ・自己を知る ・生涯発達の視点 ・青年期をどう生きるか ・将来の生活を展望する	○ ○ ◎	○ ◎ ○	◎	◎ ○ ○ ○	a: 結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかかわっているのか、興味・関心をもとうとしている。 b: 人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、少子高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通じて考えを表現することができる。 c: 自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や、人の一生についての考えをまとめることができる。 d: 自分自身や現在の社会状況を客観的に知り、将来を見通した人生設計への課題をみつけることができる。	・受講状況 ・学習意欲 ・実習取組 ・プリント ・定期考査

	子どもとかかわる	○親になることを考えよう ○すこやかに育つ環境	・子どもの発達と子どもをとりまく環境とのかかわり ・青年期の健康管理の重要性	○ ○	○ ◎	◎	○ ○	a: ・子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。生命の尊さについて、自分の現在、将来と結びつけながら、学習しようとする意欲がある。 b: 子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる c: 子どもの生活やとりまく環境、また、現在の子育ての環境や地域社会や国の支援策や課題などについて、情報を収集し、まとめることができる。 d: 生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。	・受講状況 ・学習意欲 ・実習取組 ・プリント ・定期考査
	食生活をつくる	○私たちの食生活 ○栄養と食品のかかわり ○食品の計画と調理	・食生活の問題点 ・栄養素の種類と働き ・食事摂取基準、食品群別摂取量食事計画（献立作成）、調理の基礎技術	◎ ○	○ ◎ ○	 ◎	○ ○ ○	a: 自分自身の食生活について関心をもつとともに、自分や家族の食生活について意欲的に改善・向上に努めようとする。調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。 b: 自身の食生活や現在の食生の課題を発見し、課題解決のために思考し、解決にむけての判断ができる。 c: 調理実習を通して、日常の食事づくりに必要な調理技術を身につけ、献立作成から後かたづけまでの一連の流れを計画し実践できる。 d: 栄養・食品に関する科学的な知識や調理の技術を身につけ、それを実際の食生活に生かすことができる。	

後期	食生活をつくる	○栄養と食品のかかわり ○食品の選び方と安全 ○食品の計画と調理 ○これからの食生活を考える	・栄養素の種類と働き ・食事摂取基準、食品群別摂取量食事計画（献立作成）、調理の基礎技術 ・食品衛生（食品の選択、食中毒、食品添加物） ・食品の自給率や食に関する環境	○ ◎ ○ ◎	◎ ○ ○ ○	◎	◎ ○ ○ ○	a:食品と栄養、調理との関係において、科学的な視点をもって、知識を深めようとしている。 調理実習においては、積極的に参加し、とりくもうとしている。 b: 現在の日本の食生活においての課題について調査などから発見し、解決の方法について、自分の考えをまとめることができる。 c: 栄養・食品・調理に関する基礎的な知識を生かしながら、献立を作成することができる。 d: 食事の意義や役割、食生活をとりまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。	・受講状況 ・学習意欲 ・実習取組 ・プリント ・定期考査
	衣生活をつくる	○衣服の管理 ○衣服をつくろう	・計画的な衣生活を送ろう ・簡単な衣服の製作	◎ ○	○ ○	◎	○ ○	a: 自分の衣生活をとりまく状況について関心をもち、衣生活の改善・向上に積極的にとりくもうとする。 基礎縫い実習や、衣服調査などにおいて、積極的にとりくもうとする。 b: 現在の衣生活をとりまく状況について、自分の衣生活を振り返りながら、課題を導き出すことができる。 c: 材料の選択、日常の衣服管理の方法を習得するとともに、基礎縫いなどの縫製技術を身につけ、日常着の管理ができる。 d: 衣類の購入から廃棄まで、計画的な衣生活を営む知識を身につけている。	

※表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：思考・判断・表現
c：技能　　d：知識・理解

※原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について、優先度の高いものから、◎、○、空欄として示している。